Vシネ「最も多く死んだ男」

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52)＝草津市㉒

はい上がる人 わたしの歩跡

縛り上げられて逆さまにつるされ……。Vシネマで体を張って演じる土平ドンペイさん。どんな役も断らなかった＝本人提供

東京に出て、そこそこの役が付くまでの1年ぐらい、めちゃくちゃエネルギーを使いましたね。ダッダッダッと撃たれる中の1人でも、今、なんか変なん映っていたなって感じさせる倒れ方、倒れる勢い、うわっと画面ににじみでるようなもん、何やろな。魂じゃないか。

≪京都の大部屋時代と同様、演技への提案を始めた≫

監督に「こんなことしたらダメですか」。ちょっとした役の子が提案するのは珍しいから、面白い奴やなと東京の監督5人ぐらいが思ってくれるようになって、東京の作品もぶわーっと入り出しまして。ほとんどがVシネマのワンシーンですけど、ちゃんとした役なんで、テロップには名前が出ます。仕出し(エキストラ)は、東京行ってからは一つもなかったんで。

提案して怒られたらどうすんのって、よう聞かれますけど、怒られたらやめたらええだけやん。おとなしくやってたら、そんな芝居になってまうで。がーんとやって「やめて」って言われたら、これはアカンのやなってわかる。ありがとうねってお利口さんで帰ってたら、次は正直あるかどうかもわからなかったんです。

異常者も演じ分け

≪平成のVシネマでは「最も多く死んだ男」の異名がある≫

殺される役は簡単そうで実は難しいんです。大部屋でもすぐにはさせてもらえません。Vシネマは9割ぐらいがやくざもので、その場合、死なへん作品なかったですね。当時は人気で、ビデオ屋さん行ってもずらっと並んでましたし。その頃、関西の俳優仲間とご飯食べに行って、店の人に「どんなん出てはるんですか」って聞かれたら、その俳優さんが「ドンちゃんは、ビデオ屋さんで目つむって3本取ったら、うち2本には必ず出てるわ」って。

≪チャンスを得るためにはどんな役も断らなかった≫

キワモノとか異常者の役がほんとに多くて。「お父さん、こんな人なん」って勘違いしたらあかんから、子どもには見せることがなかった。やってないのはAVくらいですね。ははは。

Vシネマ全盛期は、年間50、60本出てたんですよね。「Vシネマ辞典」っていうのに、有名どころの哀川翔さん、竹内力さん以上に本数の多い役者として紹介されていたんです。Vシネマ時代は、三つほどキワモノ役が重なるときもあって、どれも違うキワモノで、頭を整理するのが大変で。

「土平さんがすごいなあって思うのは、どの異常者も違うでしょ」ってよく言われるんですね。それだけは俺自信ある。その人がどういう境遇でそうなったのか、そっから役作りしていくからなあ。ただ単にテンションが高いだけでは浅はかすぎる。やっぱり何か奥深いことがあって、この人がこうなったんやろなあって。

≪台本には書いていない人物造形を自分なりに考え抜くのがドンペイ流だ≫

【編集局・大澤重人】

＝つづく、水曜掲載

サイン入りポストカード 10人に

NHK朝ドラ「べっぴんさん」

ドンペイさんが出演したNHK連続テレビ小説「べっぴんさん」(2016年度下半期)のサイン入りポストカード＝写真＝を抽選で10人にプレゼントします。郵便番号、住所、氏名、年齢、連絡先(電話番号かメールアドレス)をはがきに書いて、〒530－8799 大阪北郵便局私書箱46号、毎日新聞編集局・大澤宛へ。連載の感想やドンペイさんへの激励などを書き添えください。紙面で紹介する場合があります。20日締め切り。